

〔古今要覽稿草木〕むらさき竹 胡麻竹

むらさき竹は、今いふ紫竹にして、即和漢通名なり、その一名を紫君、一名紫苦、一名觀音竹といふ。  
○中俗に胡麻竹といへるは、紫黒色の斑點ありて、別種のやうに見ゆれども、その實は紫竹の年  
を経て、再びその色を變せし也。今隅田川木母寺のうしろ、及び榎木戸、また河口邊此竹殊に多し。  
〔大和本草竹〕寒竹 冬筍生ズ、孟宗竹トモ云、色黒ク細シ。

〔重修本草綱目啓蒙草木〕竹略

○中  
紫ハ紫竹ナリ、和名カンチク、モウサウチク同名アリ人家ニ栽テ籬トス、小竹ナリ、高サ五六尺、甚繁茂  
ス、冬月筍ヲ生ズ、故ニ孟宗チクト云略寒竹成熟ノ者ハ、黑色斑ヲナス、大ナル者ハ傘ノ柄ニ用  
ユ、今別ニ紫竹ト呼ブ者アリ、即苦竹ノ品類ナリ、生ジタル年ハ綠色ナリ、翌年ヨリ變ジテ紫黒色  
トナル、コレモ漢名紫竹ト云フ、

〔古今要覽稿草木〕寒竹 孟宗竹

寒竹一名孟宗竹は、漢名をまた紫竹といふ、その性叢をなして數十百幹に至る故に人家多く分  
ち植て藩籬とす、此竹徑り三四分にして、高さは九尺或は一丈許、節極めて繁し、中幹より以上は、  
大略一尺の間五節にして、それより以下は四節なり、

〔饅頭屋本節用集草木〕孟宗竹

〔書言字考節用集六生植〕孟宗竹マツソウチク本名答、寒冬生筍、故云

〔古今要覽稿草木〕孟宗竹マツソウチク爾、蓋孟宗事實出晉書、  
わせたけ

孟宗竹一名唐孟宗、一名わせたけは、漢名を狸頭竹、一名猫彈竹、一名猫兒竹といふ、その高さ二丈  
餘、圍み八九寸にして、毎節間はちくより短かし、其節の状上段至て低く、下邊は稍高し、これを細  
査すれども、全く下邊のみにて、上段なきが如し、凡諸竹は半體以下、その太さ毎節大概同じけれ